

|   |   |
|---|---|
| 国語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて |   |
| ア                                       | イ   |
| 【話すこと・聞くこと】話の大切な点を伝え、聞き取ることができる。        | 【読むこと】書かれている内容を適切に読み取ることができる。読書を通して考えを広げ、深めることができる。 |

|      | 児童・生徒の学力の状況（課題）  | 授業における具体的な手だて   | 手だての実施時期         | 成果検証（2月） |
|------|--|---|------------------|----------|
| 第1学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>しっかりと姿勢を保ち、最後まで集中して話を聞くことに課題が見られる。ア</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>聞く力を高めるために、話を聞く姿勢（体に向ける・目を見る）や態度の指導を徹底していく。</li> </ul>   | 通年               |          |
| 第2学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分で文を読み、内容を正しく理解することについて個人差が大きい。イ</li> <li>伝えたいことを順序立てて話したり、書いたりすることに苦手意識がある。ア</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書や図書を通して、本に親しむ機会を増やし、語彙力を高める。</li> <li>視写や文章を書く課題を取り入れ、書く習慣を身に付ける。書いた文章を読み返すことを意識させる。</li> </ul>               | 毎週火曜日<br>朝<br>通年 |          |
| 第3学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>文の構成を意識し、文章を書くことに課題が見られる。その他</li> <li>何が大切なところか意識しながら聞くことに課題が見られる。ア</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>「はじめ」「中」「終わり」など、文の組み立てメモを使用し、全体の構成を考えて書くようにさせる。</li> <li>小グループでの話し合い活動を意図的に設けて、意見を述べ合う中で、聞き取る力を高めていく。</li> </ul> | 通年<br><br>通年     |          |
| 第4学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな文章の表現を感じ取り、イメージすることが難しい。イ</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな文章に親しむ機会を設け、豊かな表現に触れる機会を設ける。</li> </ul>   | 読書旬間             |          |
| 第5学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>文章全体の構成を捉えて要旨を把握することを苦手とする児童がいる。イ</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>文章全体の構成を視覚的に捉えさせ、事実や登場人物の気持ち、情景の描写などを文に即して丁寧に読み取る。</li> </ul>  | 通年               |          |
| 第6学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合うことに課題がある。ア</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見の根拠を明らかにし、他者の考えを聞きながら、比較したり考えを深めたりする活動をいろいろな場面で取り入れる。</li> </ul>  | 通年               |          |

|  |   |
|--|---|
| <p>■主体的・対話的な学習活動について</p> <p>低学年：ペアや少人数などのグループでの話し合いの機会を意図的に設定していく。</p> <p>中学年：グループ活動を通して、意見を練り合う場を設ける。</p> <p>高学年：自分の意見の根拠を明らかにし、他者の考えを聞きながら、比較したり考えを深めたりする活動をいろいろな場面で取り入れる。</p> | <p>■授業の終末の工夫</p> <p>低学年：めあてのふり返りを口頭で行い、児童の理解度を確認する。</p> <p>中学年：めあてのふり返りを記述し、自己評価を次時に生かしていく。</p> <p>高学年：めあてのふり返りを記述し、互いの学びの理解を深める。</p> |
|--|---|

|   |  |
|---|--|
| 算数科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて |  |
| ア                                       | イ  |
| 【数学的な考え方】根拠を明らかにし、筋道を立てて考えることができる。      | 【数量や図形についての表現・処理】基礎基本の知識を活用して正しく表現・処理することができる。 |

|      | 児童・生徒の学力の状況（課題）                 | 授業における具体的な手だて  | 手だての実施時期                  | 成果検証（2月） |
|------|---------------------------------|--|---------------------------|----------|
| 第1学年 | ・問題解決方法を表現する（記述・発表）力が十分でない。ア    | ・自分の考えをわかりやすく話したり、自分の考えとの相違点や共通点を考えながら友だちの考えを聞いたりする場面を意図的に設ける。 | 通年                        |          |
| 第2学年 | ・基礎的・基本的な数処理の定着状況に個人差がある。イ      | ・「東京ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」、「ミライシード」を活用し、計算力の向上を図る。      | 夏季・冬季の補習学習時や朝学習（ぐんぐんタイム）時 |          |
| 第3学年 | ・問題解決方法を表現する（記述・発表）力が十分ではない。ア   | ・自分の考えを言葉や式、図などを用いて表現する活動を多く取り入れる。                             | 通年                        |          |
| 第4学年 | ・四則計算の定着にやや課題がある。イ              | ・「東京ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」、ミライシードを活用し、計算力の向上を図る。        | 夏季・冬季の補習学習時や朝学習（ぐんぐんタイム）時 |          |
| 第5学年 | ・作図や四則混合計算、数量関係を捉えることが苦手な面がある。イ | ・個に応じて、習熟の時間を確保し、学習内容を理解できるようにする。                              | 少人数指導時                    |          |
| 第6学年 | ・学習内容の理解と定着に個人差がある。イ            | ・レディネステストの結果を元に、習熟度別クラスを編成し、前時の時間を振り返りながら個に応じたきめ細かい指導を心がける。    | 少人数指導時                    |          |

|   |  |
|---|--|
| <p>◇主体的・対話的な学習活動について</p> <p>低学年：「どうしてそうなるのか」という問いから、グループ形態を変化させながら意見を交換し合う場を設定する。</p> <p>中学年：自分の考えとの相違点や共通点を考えながら友だちの考えを聞いたりする場面を意図的に設ける。</p> <p>高学年：既習事項を生かしてみんなで考える活動を行い、解決方法を学び合う。</p> | <p>■授業の終末の工夫</p> <p>低学年：めあての確認を行い、本時の学びを確かなものにする。</p> <p>中学年：めあてのふり返りの中で、本時の学びの内容を確かにし、次にむけた内容を提示する。</p> <p>高学年：めあてのふり返りの中で、本時の学びの内容を確かにし、その学びを生かした次時への学習への方向性を示す。</p> |
|---|--|

|  |  |
|--|--|
| 社会科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて        |  |
| ア  | イ  |
| 【観察・資料活用の技能・表現】資料から内容を読み取る時に必要な情報をつかみとることができる。 | 【社会的事象についての知識・理解】社会的事象についての語句を知るとともに、意味についても適切に理解することができる。 |

|      | 児童・生徒の学力の状況（課題）  | 授業における具体的な手だて   | 手だての実施時期        | 成果検証（2月） |
|------|--|---|-----------------|----------|
| 第3学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>資料にある情報と関わりのある内容を見出すことにやや課題がある。ア</li> <li>基本的な知識の習熟が不十分である。イ</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な資料を提示して、資料から事実を読み取り、わかったこと・考えたことをまとめる活動に取り組ませる。</li> <li>体験的な活動を多く取り入れ、社会的事象とつなげて考えさせる。</li> </ul>            | 通年<br><br>社会科見学 |          |
| 第4学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>市や都道府県の地理的感覚が十分でない。ア</li> <li>物事を多角的に見るための知識の習熟に課題がある。イ</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>地図帳を活用し、地理的感覚を方角やまちの様子、地形の特徴などからより豊かにさせる。</li> <li>身近な例を取り上げ、生活体験とつながりをもたせて様々な視点から学習を展開する。</li> </ul>            | 通年<br><br>通年    |          |
| 第5学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県や国の地理的感覚が不十分である。ア</li> <li>基本的な知識の習熟が不十分である。イ</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>地図帳や地球儀を活用し、地理的感覚を気候の様子や都道府県の位置関係などからより豊かにさせる。</li> <li>社会的事象を日常生活と結び付けながら習熟度を高める。</li> </ul>                    | 通年<br><br>通年    |          |
| 第6学年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の国土や世界の地理的感覚や資料の読み取りに課題がある。ア</li> <li>社会的事象の相互の関連を理解するための知識の習熟にやや課題がある。イ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>グラフや表を読み取る学習や資料を活用する学習を適宜取り入れ、必要な情報を読み取る力を高める。</li> <li>既習事項を授業内容とつなげながら、繰り返し社会的事象の語句や内容にふれていくよう指導する。</li> </ul> | 通年<br><br>通年    |          |

|  |  |
|--|--|
| <p>■主体的・対話的な学習活動について</p> <p>中学年：学習問題に至る過程のところで、疑問をもたせたり、予想を立てさせたりする活動を單元ごとに行う。</p> <p>高学年：既習事項をもとに、学習問題を設定する際、予想を立て、調べまとめる学習を多く取り入れながら、みんなで協力して解決していく活動を取り入れる。</p> | <p>■授業の終末の工夫</p> <p>中学年：本時の学習のふり返りをノートに書かせ、児童の理解の状況を確認していく。</p> <p>高学年：本時の学習のふり返りをノートに書かせ、児童の理解の状況を確認し、内容に応じて次時の学習に生かしていく。</p> |
|--|--|

|   |                              |
|---|------------------------------|
| 理科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて    |                              |
| ア   | イ                            |
| 【科学的な思考・表現】自然事象についての諸々の因果関係を捉え、考えることができる。 | 【観察・実験の技能】実験の結果を的確に表すことができる。 |

| 児童・生徒の学力の状況（課題） | 授業における具体的な手だて  | 手だての実施時期  | 成果検証（2月）     |
|-----------------|--|---|--------------|
| 第3学年            | <ul style="list-style-type: none"> <li>生き物は好きであるが植物を対象にした観察の技能では個人差がある。イ</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学級園などの体験できる環境を整え、観察の機会をつくる。</li> </ul>   | 春～秋          |
| 第4学年            | <ul style="list-style-type: none"> <li>意欲をもって観察してはいるが、細かく観察し表すことに個人差がある。イ</li> <li>自然事象に関する科学的な理由について考えたことを自分の言葉で表現することに課題がある。ア</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>季節ごとに感覚を働かせる観察に取り組む。</li> <li>「なぜ」を大切に自ら解決し、考えたことを自分の言葉で表現する活動を増やす。</li> </ul>   | 春～秋<br>通年    |
| 第5学年            | <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項からの類推など、学びを生かして考えることに課題がある。ア</li> <li>実験結果について適切に言葉で表現する力がやや不十分である。イ</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項や今までの経験を想起できるような補助発問を通して、言葉で表現できるようにする。</li> <li>問題→予想→方法→結果→考察という授業の流れを定着させ、ノートに自分の考えを書き、調べてわかったことをまとめる活動を通し、思考力・表現力を伸ばしていく。</li> </ul> | 通年<br><br>通年 |
| 第6学年            | <ul style="list-style-type: none"> <li>事柄や現象は理解しているが、原因の説明はやや苦手である。ア</li> <li>観察や実験について、基本的な技能の習得に課題がある。イ</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>問題→予想→方法→結果→考察という授業の流れを定着させ、ノートに自分の考えを書き、調べてわかったことをまとめる活動を通し、思考力・表現力を伸ばしていく。</li> <li>観察や実験の手順を丁寧に確認しながら授業を進める。</li> </ul>                   | 通年<br><br>通年 |

|   |   |
|---|---|
| <p>■主体的・対話的な学習活動について</p> <p>中学年：問題に対する予想や結果の考察について学級全体で話し合う機会をもつ。</p> <p>高学年：結果の数値、状況などを分析し、考えられる内容について、話し合う。</p> | <p>■授業の終末の工夫</p> <p>中学年：考察からのふり返りをノートに書き、新たなる疑問や課題についての思いを大切にしていく。</p> <p>高学年：考察からのふり返りを聞き合う中で、互いの見方や考え方を知り、物事に対する視野を広げていく。</p> |
|---|---|